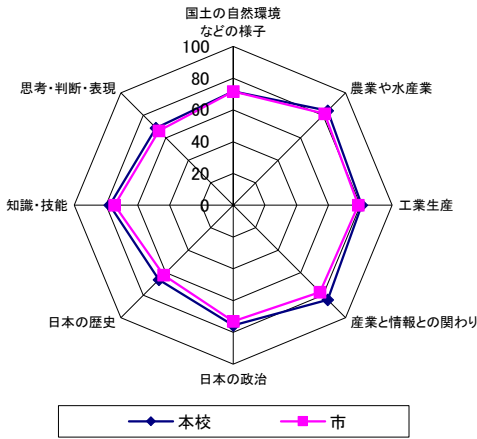


宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	71.7	71.6	67.5
	農業や水産業	84.1	81.5	82.1
	工業生産	80.9	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	84.1	77.2	68.2
	日本の政治	75.6	73.1	77.9
観点別	日本の歴史	66.2	62.0	65.8
	知識・技能	77.7	74.6	74.5
	思考・判断・表現	68.8	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○校内正答率は71.7%で、市の正答率とほぼ同等である。 ●韓国の国旗と位置について理解しているかを問う問題の校内正答率は67.1%で、市の正答率より5.6ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 日本の国土の位置や地形の名称等については、積極的に地図帳を活用して、様々な地図や地球儀に触れさせるなどして知識の定着を図っていきたい。また、日本の近隣の国々や国旗についても、授業の中で適宜取り上げ、楽しく知識を増やせるような工夫をするなどして定着を図っていきたい。
農業や水産業	○校内正答率は84.1%で、市の正答率を2.6ポイント上回った。 ○地産地消の取り組みを理解しているかを問う問題の校内正答率は87.8%で、市の正答率を5.3ポイント上回った。 ●都道府県の位置と農産物の産地を理解しているかを問う問題の校内正答率は78.0%で、市の正答率より1.6ポイント下回った。	地図などを活用して都道府県の位置を定着させるとともに、各野菜や果物、畜産物といった農産物の生産量が多い都道府県と関連付けていききたい。 地産地消については、食育においても耳なじみのある言葉であったと考えられる。教科書の「ことば」にある重要語句を授業中に押さえることはもとより、他教科や他領域の学習においても社会科に関連する語句に触れさせていききたい。
工業生産	○校内正答率は80.9%で、市の正答率を2.2ポイント上回った。 ○自動車工場の作業工程について理解しているかを問う問題の校内正答率は96.3%で、市の正答率を3.7ポイント上回った。	自動車工場の作業工程についての理解がよくできていた。今後も、写真や絵の資料を活用し、イメージとともに定着させていくことや、読み取るときに着眼点を意識させて見方を定着させていく。工業生産に関する特色について、語句を正しく使い、記述してまとめる活動をしていきたい。
産業と情報との関わり	○校内正答率は84.1%で、市の正答率を6.9ポイント上回った。 ○資料に着目して、コンビニエンスストアの「発注システム」について捉え、判断する問題の校内正答率は72.0%で、市の正答率を9.2ポイント上回った。	情報を生かす産業と国民生活との関わりについて、販売者と消費者のように、複数の視点から捉えることができるようにしていきたい。産業においては、消費者にサービスを広げ、自己の仕事に活用していくねらいがあることを押さえながら授業を展開していく必要がある。選択肢の意味を捉えて答えるようにしていきたい。
日本の政治	○校内正答率は75.6%で、市の正答率を2.5ポイント上回った。 ○税金について理解しているかを問う問題の校内正答率は90.2%で、市の正答率を9.4ポイント上回った。 ●図に着目して、国民による政治の仕組みを判断する問う問題の校内正答率は47.6%で、市の正答率より2.4ポイント下回った。	国の政治に必要なお金は税金によってまかなわれているということについての理解はよくできていた。資料から読み取る力を身に付けさせたい。児童にとって、より身近で切実なものであると捉えることができるように授業展開を工夫し、学校や学級に置き換えたり、より小規模な市の働きを取り上げたりするなどして国の政治と関連付けながら、政治の働きに関心がもてるよう今後も指導を継続していく。
日本の歴史	○校内正答率は66.2%で、市の正答率を4.2ポイント上回った。 ○室町時代の文化について理解しているかを問う問題の校内正答率は78.0%で、市の正答率を19.9ポイント上回った。 ●鎌倉幕府が置かれた場所の資料を読み取る問題の校内正答率は59.8%で、市の正答率より5.0ポイント下回った。	歴史の学習において基本的な知識を定着させるために、歴史的な事象を絵や地図などの資料と言葉を関連付けさせて理解させていきたい。歴史的な事象を羅列する学習ではなく、授業の中で、統計グラフや地図、当時の絵や写真などの資料を多く取り扱い、その資料から何が読み取れるのかを発表し合うような場を設定したり、資料と資料を関連付けたりしながら基礎・基本の確実な定着を図っていききたい。また、その際には他教科や既習学年の内容にも触れながら、確実な定着を図っていききたい。加えて、理解力を生かした表現する場の計画的な設定も必要である。